



▲受診者一人ひとりに丁寧に説明

診察室や検査室以外の場所では、従来の病院らしさはほとんど感じられない。ホテルのような受付やラウンジなどハード面はもちろんのこと、「お待たせしないことと、対話を大切にすることをスタッフ全員が心得ている」と零石氏がいうように、事務スタッフはいうまでもなく、検査技師たちも笑顔で受診者に話しかけることを忘れない。すべては受診の不安をやわらげ、リラックスして検査を受けてもらうための配慮である。設備で特筆すべきはPET/CTの待合室（検査薬剤の注射後、1時間ほど安静して過ごす部屋）。プライバシーが守られる造りと、零石氏が座り心地にこだわったというリクライニング式のソファは、受診者にも好評だ。



▲PET/CTの待合室。くつろげるソファとテレビを完備

Hospital data



医療法人 峯昭会
さいたまセントラルクリニック

〒330-0834 さいたま市大宮区天沼町2-759
さいたまメディカルタウン3階
TEL. 048-658-3741 FAX. 048-658-3740
http://www.saitama-cc.or.jp/scc

PET/CT検診は自由診療（健康保険適用外）です。
PET/CTスタンダードコース¥185,000(税込) ※2014年2月現在
検診予約のご相談は下記窓口にお気軽にご連絡ください。
TEL: 048-658-3720 受付時間(月~土9:00~18:00)
FAX: 048-658-3721 (24時間)



▲2階のカフェラウンジ。検診後にくつろぐ人も多い

●さいたまメディカルタウン

さいたまセントラルクリニックを基幹に、複数の医療機関が集まる医療モール「さいたまメディカルタウン」。究極の医療サービスとして、テーラーメイドの医療を提供する会員制のメディカルクラブもある。漆喰の白い壁が印象的な建物は目を引く一方、周辺の住宅に無理なく馴染み、「隠れ家的な検診施設」（零石氏）という表現がぴったりだ。治療から予防へという流れの中で、気軽に検診を受けられるヘルスケアの拠点として注目が集まる。

快適に検査を受けてもらうための配慮も細やか

PET/CTはがんの発見に有用性の高い検査ですが、胃がんなど苦手とするがん種もあり。そのため、がん検診では、バリウム検査などのX線透視、経鼻内視鏡、超音波、マンモグラフィ、MRIなども併用し、適切な検査を組み合わせた総合的な画像診断を実施しています。

クリニック開設から4年以上がたち、現在約500の医療機関から画像検査の依頼を受けるようになりました。医療機関の依頼は1週間以内、がん検診では2週間程度で結果をお届け

「いい日はいくらでもある。いい人生を送るために定期検診を」

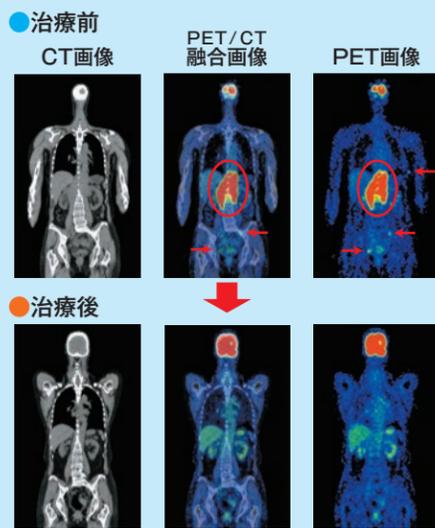
「いい人生だ」という格言があります。検診は「いい人生」のためのものですが、1回で終わらせたのでは「いい日」を得たに過ぎません。定期的に検診をつづけることが「いい人生」への近道だと考えています。そして、当クリニックがもっとも大切にしていることは、受

診された方との「対話」です。私自身、患者さんと直接お話しがしたいという強い思いを抱き、このクリニックへと仕事の場を移しました。適切な検査を安全に十分留意して提供するとともに、対話を通して皆さんの不安を少しでもやわらげ、多くの方のいい人生を送るためのお手伝いができればと願っています。



PET/CT

▲PETとCTが一体型となったもので、着衣のまま、短時間に一度の検査で全身のチェックができる。PETの画像にCT画像を組み合わせることで精度の高い診断が可能。



▲CTでは分かりにくいのが、PETでは赤く表示される集積が消えており、はっきりとわかる。



医療法人 峯昭会
さいたまセントラルクリニック

PETの特性を生かし
総合的診断を導き出す

「早期発見早期治療のために、より速く・より確かに」を理念に、2009年にオープンしたさいたまセントラルクリニック。理事長・院長の零石一也氏は、大病院の放射線科専門医として長く画像の読影を仕事にしてきたが、「ドクター・フー！」ドクターの立場から、患者さんと直接対話できる環境に」と、2013年同クリニック理事長・院長に就任した。零石氏が求める「より正しい診断」に果たすPET/CTの役割とは何か。



理事長・院長
零石一也

しずくいし・かずや/1996年横浜市立大学医学部卒業。2012年横浜市立大学附属病院放射線科講師。2013年医療法人峯昭会さいたまセントラルクリニック理事長・院長就任。日本医学放射線学会認定放射線科専門医、日本核医学会認定核医学専門医。専門領域は腫瘍核医学放射線診断。

より正しい診断を
目指して

PET/CT検査の利点は、がんの形や大きさに加え、がん細胞の性質（悪性度）が同時にわかることです。PET/CTが開発される前は、PETとCTが別々の検査として行われ、異なる医師が読影を担当して

は画像診断医、PETなどがんの性質を調べる機能画像の読影は核医学医が行っていました。私は当時、画像診断医でしたが、より正確に診断したいと思い、CTやMRIの画像と核医学検査の画像を並べ、照らし合わせて判断する「見比べ診断」を行っていました。

がんの悪性度や進行度（病期）も示すPET/CTの画像は、治療方針を決定する上で重要な情報となります。また、再発病変の見落としを防ぐための検査としても有効です。

変化を感じたり、急激に体重が減った方でがんを心配されている方です。よく質問をいただくのは、がん検診としてPET/CTを受ける頻度についてですが、1〜2年に1回とお答えしています。ある60歳の女性は、CT検査で乳腺に数mmのしこりが見

つかり、そのときはPETの集積は陰性でしたが、1年後に再検査を実施するとしこりが5mmに増大し、集積も陽性に転じていました。このように1年の経過でがんが明らかにすることも経験します。幸いにも定期的な受診されている方の多くが、早期で発見

早期発見のためには
定期的な検診を

中央が零石院長。「豊富な経験を積んだスタッフと共に、皆様の健康をサポートいたします」

